

取締役会の実効性評価について

取締役会は、当社の中長期的な企業価値の向上に資することを目的として、毎年、取締役会の実効性に関する分析および評価を実施し、その結果の概要を開示しています。2025 年度に実施した取締役会実効性評価およびその結果の概要は、以下のとおりです。

1. 評価の手法

対象者	2026 年 3 月末時点における全取締役および監査役（取締役 5 名、監査役 3 名）
方式	記述式アンケート ※2025 年度から第三者機関の支援を受けたことに伴い、質問内容を抜本的に見直し、匿名式としています。
質問内容	取締役会の構成と運営 経営戦略と事業戦略 企業倫理とリスク・危機管理 業績モニタリングと経営陣の評価 株主等との対話
実施時期	2026 年 5 月
第三者機関の活用	アンケートの設問選定、結果分析などにおいて、第三者（外部コンサルタント）のアドバイス、補助を受けました。

2. 評価結果の概要

上記アンケートの結果、当社の取締役会の実効性については、概ね適切に確保されているとの評価を得ました。特に、取締役会においては、適切な規模および構成が確保されていることに加え、実効的な内部通報制度の整備や自由闊達な議論が行われている点が、強みとして評価されています。

3. 2024 年度の実効性評価において抽出された課題に対する取り組みと評価等

抽出された課題	2025 年度の取り組み	今回の評価と今後の取り組み
英文情報の充実	従来の開示資料に加え、統合報告書の英文開示を実施	着実な前進はあるものの、更なる改善の余地があるため、より一層の充実を目指す
人財育成のための育成方針の策定および体制整備を行い、確実かつ継続的な実施	人事戦略部を新設	人財育成の議論が開始され、改善傾向にあるものの、更なる改善の余地があるため議論の拡充を図る
I R 活動の一層の進展	広報・IR 部署の新設	専門部署の設置により一定の改善が見られた
企業戦略等、成長の展望と目標達成のための P D C A サイクルを回す仕組みの強化	取締役会で指摘されたリスク要因は一覧化して管理のうえ対応策を実施	リスクに関する対応は改善傾向にあるものの、更なる改善の余地があるため対応を継続する
案件ごとのリスクの検証や資料および議論の質の向上	執行側の会議における議論の内容を取締役会資料へ記載する運用に変更	資料内容の充実は進んでいるものの、品質の更なる向上に向けて資料のひな型等の整備を推進する

4. 2025 年度の実効性評価において抽出された課題および取り組み方針

抽出された課題	2026 年度の取り組み方針
議論に必要な情報の提供	資料のひな型を整備し、資料の質を向上
戦略の議論の拡充・深化	年間アジェンダを設定し、戦略の議論のための審議時間を拡充
業績と連動した役員報酬の設計	任意の指名・報酬委員会にて役員報酬スキームを見直しの議論を実施
経営人財育成の監督	任意の指名・報酬委員会にて議論を継続
実行計画のモニタリングと対応の強化	実行計画の進捗状況を取締役会に定期的に報告

今後の対応として、当社取締役会は上記の取り組み方針に基づき、課題事項を改善しつつ継続的に取締役会の実効性確保に努めることで、コーポレート・ガバナンスの向上を図るとともに、更なる企業価値の向上を目指してまいります。